

# 防衛省におけるSakana AI支援のインテリジェンス実証：公開情報（OSINT）分析とAIエージェント技術の全貌

Gemini 3.7 Flash

## 契約締結の背景と実証事業の概要

防衛省および防衛装備庁は、自衛隊の中枢における情報分析機能および意思決定プロセスの抜本的強化を目指し、日本発のAIスタートアップであるSakana AI株式会社との間で実証契約を締結した<sup>1</sup>。現代の安全保障環境はハイブリッド戦や情報空間の複雑化に伴い、収集すべき情報量が加速度的に増大している<sup>3</sup>。防衛省の情報機関である情報本部の分析官が担う「総合分析業務」は、政策判断や部隊運用を支える戦略的インテリジェンスの中核であり、公開情報（OSINT）、電波情報（SIGINT）、画像・地理情報（GEOINT）などの多様な情報源を統合処理して報告書を作成する重責を担っている<sup>3</sup>。

しかし、膨大なデータ流通量を前に、網羅的な情報収集や迅速・正確な分析、知見の体系的管理を人手のみで完結させることには物理的限界が生じている<sup>3</sup>。加えて、市販の汎用生成AIを直接導入する手法には、ハルシネーション（幻覚）の発生、データのバイアス、情報の鮮度や網羅性の不備、さらには安全保障上の機密漏洩リスクといった構造的課題が存在する<sup>3</sup>。こうした背景から、防衛省は高い推論信頼性と自律性を兼ね備えた国産AI技術の検証に着手した<sup>3</sup>。

| 契約項目   | 詳細仕様・実績値                                 |
|--------|------------------------------------------|
| 案件名    | 総合分析業務に必要なAI機能の調査・実証 <sup>1</sup>        |
| 受注事業者  | Sakana AI株式会社 <sup>1</sup>               |
| 発注元機関  | 防衛省 / 防衛装備庁（実務対象：防衛省情報本部） <sup>3</sup>   |
| 契約締結日  | 2026年7月29日（公表日：2026年8月24日） <sup>1</sup>  |
| 契約金額   | 3億2,903万2,000円（防衛装備庁公表） <sup>3</sup>     |
| 対象データ  | 公開情報（OSINT：有料・無料のオープンソース全般） <sup>3</sup> |
| 事業完了予定 | 2027年度末（モデル試用・改修を経て成果報                   |

|  |                 |
|--|-----------------|
|  | 告) <sup>3</sup> |
|--|-----------------|

本事業の契約額は3億2,903万2,000円であり、Sakana AIが培ってきたAIエージェント技術およびマルチモデル・オーケストレーション技術を活用し、実際のインテリジェンス業務フローに即した実証システムを構築・評価する<sup>3</sup>。

## 実証対象領域と技術的メカニズム

本実証の大きな特徴は、対象とするデータ領域を「公開情報（有料・無料を問わない）」に厳格に限定している点にある<sup>3</sup>。機密性の高い電波情報や防衛秘密を直接AIに投入するのではなく、まず外部公開情報の処理プロセスをAIエージェント群に委ねることで、セキュリティ上のリスクを極小化しつつ実用性を検証するアプローチが採られている<sup>3</sup>。

実証は「情報収集の効率化」「分析能力の向上」「体系的な情報管理」という3つの相互に関連する機能領域に焦点を当てて推進される<sup>3</sup>。収集段階では、多言語にまたがる海外報道、論文、公的発表、ソーシャルメディアなどの膨大な公開データから、複数の特化型エージェントが自律的に関連情報を巡回・抽出する<sup>2</sup>。分析段階では、収集した断片的な事実同士をクロスチェックし、矛盾点の解消や因果関係の抽出を行うことで、単なる要約にとどまらない戦略的シナリオや論点の構造化を支援する<sup>2</sup>。管理段階では、分析プロセスと推論根拠をトレーサブルな形式で構造化し、後続の報告書作成や組織内ナレッジの再利用を容易にする基盤を構築する<sup>3</sup>。

| 機能領域     | 従来の人的運用における課題                                    | AIエージェント技術による解決アプローチ                                     |
|----------|--------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 情報収集の効率化 | 膨大な多言語公開ソースの巡回に伴う見落としやタイムラグ <sup>3</sup> 。       | 専門エージェント群が多言語ソースを自律巡回し、重要情報を即座にフィルタリング・集約 <sup>2</sup> 。 |
| 分析能力の向上  | 情報過多によるノイズ混入、認知バイアス、複雑な因果関係整理の高負荷 <sup>3</sup> 。 | 長時間自律推論と仮説検証ループにより、矛盾を解消し戦略的選択肢を構造化 <sup>3</sup> 。       |
| 体系的な情報管理 | 分析官個人の属人化、調査履歴のサイロ化と後続業務への再利用難 <sup>3</sup> 。    | 根拠情報の追跡可能性（トレーサビリティ）を担保した構造化知識ベースの構築 <sup>3</sup> 。      |

Sakana AIの技術的バックボーンには、単一の巨大モデルに過度に依存せず、タスクに応じて専門モデルを動的に編成・協調させる「Conductor」アーキテクチャ（Sakana Fugu基盤）や、推論時計算量（Inference-time Compute）を拡大させて最大8時間におよぶ自律的仮説探索を実行するリサーチエージェント技術（Sakana Marlin）が存在する<sup>8</sup>。同社は2026年7月の公開情報分析競技会「Diver OSINT CTF 2026」において、自社開発のオーケストレーションモデル「Fugu-Ultra 1.1」を活用したOSINTエージェントを投入し、850以上の参加チーム中5位の成績を収めるなど、実践的な公開情報分析能力を実証している<sup>12</sup>。

# 日本の防衛AI戦略における多層構造と役割分担

防衛省が展開するAI導入施策は、情報本部の戦略インテリジェンスにとどまらず、作戦計画の立案や前線部隊の指揮統制 (Command and Control: C2) までを網羅する多層的なエコシステムを形成している<sup>2</sup>。自衛隊が直面する任務のレイヤーに応じ、国内の主要AIベンダーと防衛産業が明確な役割分担のもとで実証を進めている<sup>2</sup>。

| プロジェクト名                                     | 発注・研究機関                                    | 参画企業 / 採用モデル                                                           | 適用レイヤーと担務領域                                                                      |
|---------------------------------------------|--------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 総合分析業務に必要なAI機能の調査・実証<br>[cite: 1, 3]        | 防衛省 / 防衛装備庁 <sup>1</sup>                   | <b>Sakana AI</b><br><br>(AIエージェント / オーケストレーション) <sup>3</sup>           | 戦略インテリジェンス (国家政策レベル)<br><br>公開情報 (OSINT) の収集・分析・管理、戦略的シナリオの構造化 <sup>3</sup> 。    |
| 観測・報告・情報統合・資源配分高速化の研究<br>[cite: 17, 18, 19] | 防衛装備庁 防衛イノベーション科学技術研究所 (DISI) <sup>3</sup> | <b>Sakana AI</b><br><br>(小規模エッジVLM / 複数AI統合) <sup>2</sup>              | 戦術・指揮統制基盤 (C2レベル)<br><br>陸海空ドローン・各種センサーからのデータ統合、制約下通信環境下での前線処理高速化 <sup>2</sup> 。 |
| 生成AI等を用いた作戦環境情報の分析支援<br>[cite: 20, 21, 22]  | 防衛装備庁 新世代装備研究所 <sup>20</sup>               | <b>Preferred Networks (PFN)</b><br><br>(PLaMo 3.0 Prime) <sup>21</sup> | 作戦計画立案 (司令部運用レベル)<br><br>文書・地理空間情報の統合、作戦シミュレーションおよび作戦計画策定支援 <sup>21</sup> 。      |
| 新指揮統制ソフトウェア開発<br>[cite: 16]                 | 統合幕僚監部 / 統合作戦司令部 <sup>16</sup>             | 三菱重工業 等<br>[cite: 16, 22]                                              | 全ドメイン統合防衛アーキテクチャ<br><br>自衛隊基幹システムへの国産AIモジュール組み込み、防衛アセットの統制 <sup>16</sup> 。       |

Sakana AIが防衛装備庁から受注した案件を比較すると、2026年3月のDISI案件が「前線のドローンやセンサーから得られるデータを統合し、即応的な指揮命令につなげる戦術・運用レベル(C2)」を対象としていたのに対し、同年7月29日契約の本案件は「国家安全保障政策全体を支える戦略インテリジェンス(OSINT総合分析)」を対象としている<sup>3</sup>。これにより、Sakana AIの技術提供範囲は現場の戦術支援から中枢の戦略的意思決定支援へと大きく垂直展開した<sup>3</sup>。

## AI主権の確立とソブリン環境における安全保障上の意義

本事業の根底には、防衛・インテリジェンスの中枢機能において「AI主権(AI Sovereignty)」を確保するという地政学的な要請が存在する<sup>7</sup>。

外国製のフロンティアモデルは高い性能を持つ反面、米国の輸出管理規則や特定モデルの外国人利用制限といった地政学的リスクを内包しており、基幹的な防衛システムを単一の海外ベンダーに全面依存することは供給途絶やアクセス遮断の脆弱性を招く<sup>11</sup>。また、安全保障上の最高度機密を取り扱う防衛業務においては、海外クラウドへのデータ送信が法制上・運用上制限されるため、外部ネットワークから物理的に隔離された環境(エアギャップ)や国内の主権的データセンターで完結する国産基盤の存在が極めて重要となる<sup>2</sup>。

日本政府は、世界最先端のAI技術知見を取り入れつつも、最終的な情報統合や意思決定支援の中枢を国内自律的なシステムで完結させる「二層構造アーキテクチャ」の確立を推進している<sup>2</sup>。防衛省が統合作戦司令部を中心に整備を進める「高機密ソブリンクラウド」構想において、Sakana AIの軽量・高効率なエージェントモデルやモデルマージング技術は、国外依存を排した強靱な防衛計算基盤の構築に寄与する<sup>17</sup>。

なお、防衛省が追求するAI導入は「AIによる自動交戦や完全自律型の判断」ではなく、あくまで分析官や指揮官の認知的負荷を軽減し、より高次の判断を支援する「Human-in-the-loop(人間参加型)」を大前提としている<sup>5</sup>。AIエージェントが情報のスクリーニングや複数のシナリオ・選択肢を構造化して提示し、最終的な情勢評価や意思決定の責任は人間が負うという運用原則が維持されている<sup>5</sup>。

## 実装ロードマップと今後の展望

本実証事業は2027年度末までの複数年にわたるロードマップに基づいて展開される<sup>3</sup>。

初動段階として、2027年度初頭にかけて防衛省側へ実証用プロトタイプモデルが提供され、情報本部の分析官が実際の業務シナリオに即したテスト試用を実施する<sup>3</sup>。公募仕様に基づき、言語モデルのみならず推薦型手法やマルチモーダル処理、オンプレミスとセキュアクラウドを組み合わせた実行環境の適合性が評価される<sup>3</sup>。

次いで、分析官からの実務的フィードバックを踏まえたアルゴリズムの改修、偽情報・認知戦対策機能の統合、国内外の最新AI技術動向や法制度・コスト面の課題整理が進められる<sup>3</sup>。2027年度末にはこれらすべての実証成果と技術評価を取りまとめた最終報告書が策定され、本格的な基幹システムへの社会実装に向けた移行判断が行われる予定である<sup>3</sup>。

将来展望として、本事業で確立されるOSINTエージェント基盤は、防衛省が保有する閉域ネットワーク内の電波情報(SIGINT)や衛星画像(GEOINT)などの機密インテリジェンスと有機的に結合する「全ドメイン情報融合」へと発展する可能性を秘めている<sup>2</sup>。公開情報に基づく大局的な兆候察知と、機密センサーによる精密検証をシームレスに統合することで、日本の防衛における情報処理の即応性と精度は飛躍的に向上するものと評価される<sup>2</sup>。

## 引用文献

1. Sakana AI、防衛省の情報分析AIを受注 契約額3億2903万円で調査,  
<https://novaist.jp/articles/sakana-ai-defense-ai-trial/>
2. 防衛省が情報分析に国産AI、サカナAIと実証契約 安保分野で導入加速,  
<https://finance.biggo.jp/news/bef6da9a-44d1-44b1-8e14-99d21f8bb6ca>
3. 防衛省の情報分析をSakana AIがAI支援 公開情報で収集・分析・管理,  
[https://ledge.ai/articles/sakana\\_ai\\_defense\\_information\\_analysis](https://ledge.ai/articles/sakana_ai_defense_information_analysis)
4. 防衛省から「総合分析業務に必要なAI機能の調査・実証」を受注,  
<https://sakana.ai/defense-integrated-analysis/>
5. Sakana AIが防衛省の情報分析業務を支援 - AIエージェントナビ,  
<https://aiagent-navi.com/news/sakana-ai-defense-intelligence-analysis/>
6. Sakana AIが防衛省情報本部と契約 | AIは判断しない,  
<https://aifriends.jp/sakana-ai-japan-defense-intelligence-contract/>
7. 自衛隊指揮に国産AI、情報収集や分析担わせ迅速な意思決定,  
<https://www.yomiuri.co.jp/politics/20260809-GYT1T00295/>
8. Sakana Marlin — Your Virtual CSO, <https://sakana.ai/marlin/>
9. Sakana AI、防衛省の情報分析支援 - コプラス株式会社,  
<https://coplus-one.jp/sakana-ai-mod-intelligence-analysis/>
10. Sakana Fuguとは？料金や最新機能を情シス目線で解説,  
<https://admina.moneyforward.com/jp/blog/sakana-fugu-enterprise-guide>
11. Sakana Fugu — Multi-Agent System as a Model, <https://sakana.ai/fugu/>
12. Sakana AI Blog, <https://sakana.ai/blog/>
13. DIVER OSINT CTF 2026」で5位入賞 Fuguを活用した ... - Sakana AI,  
<https://sakana.ai/diver-osint/>
14. Agentic Systems — AI news - TLDRocket,  
<https://tldrocket.com/topic/agentic-systems>
15. Sakana AI releases multiple products including Chat, Marlin,,  
<https://tldrocket.com/event/sakana-ai-releases-multiple-products-including-chat-marlin-fugu-and-translate>
16. 防衛省の委員会が4月に提言 | 「国防AIの主権性」と国産指揮統制,  
<https://innovatopia.jp/tech-social/tech-social-news/115610/>
17. 防衛省と約9.7億円の研究契約 情報分析をAIエージェントで高速化,  
<https://www.atpartners.co.jp/news/2026-08-25-japanese-ai-firm-sakana-ai-signs-approximately-970-million-yen-research-contract-with-the-ministry-of-defense-to-accelerate-information-analysis-using-ai-agents>
18. Sakana AI、防衛イノベーション科学技術研究所からの委託研究を開始,  
<https://sakana.ai/atla-contract-2026/>
19. Sakana AI、防衛装備庁のAI研究を受託 複数AIを組み合わせ意思決定,  
[https://ledge.ai/articles/sakana\\_ai\\_atla\\_multi\\_ai\\_decision\\_research](https://ledge.ai/articles/sakana_ai_atla_multi_ai_decision_research)
20. PFN、防衛装備庁の「生成AI等を用いた作戦環境情報分析支援実現」,  
<https://www.preferred.jp/ja/news/pr20260729>
21. PFN、防衛装備庁の生成AI実証を受託「PLaMo 3.0 Prime ... - Ledge.ai,  
[https://ledge.ai/articles/pfn\\_defense\\_ai\\_planning\\_support](https://ledge.ai/articles/pfn_defense_ai_planning_support)
22. 日本のPFNが国産AIで自衛隊の作戦立案支援、防衛省 ... - ビジネス+IT,

<https://www.sbbit.jp/article/cont1/186317>

23. Preferred Networksが防衛装備庁の実証を受託。国産の生成AIで,  
[https://aismiley.co.jp/ai\\_news/pfn-mod-ai-operational-analysis/](https://aismiley.co.jp/ai_news/pfn-mod-ai-operational-analysis/)
24. 自衛隊の指揮統制にAI | 防衛費8.9兆円要求 - AIフレンズ,  
<https://aifriends.jp/jsdf-ai-command-control-defense-budget-2027/>
25. Introducing Fugu-Cyber: our new orchestration model that achieves,  
<https://sakana.ai/fugu-cyber-release/>
26. 政策 | AI経済新聞, <https://aikeizai.jp/policy/>